

出張報告書

『動物園におけるニホンザルの検疫研修及び沖縄本島野生動物に関する野外実習』

兼子明久

京大霊長研人類進化モデル研究センター

日時：2013年12月11日～15日

場所：沖縄本島

参加者：岡本宗裕（教授）、鈴木紗織（D1）、江島俊（M2）

石上暁代（技術職員）、夏目尊好（技術職員）、兼子明久（技術職員）

【沖縄こどもの国動物園におけるニホンザルの検疫研修】

動物園で行われたニホンザル検疫に参加した。新人職員や獣医の資格を持つ大学院生もいたため、彼らの教育に役立てることができた。兼子についても動物園の獣医師の方へ霊長研のノウハウを伝えることと、お互いの技術交換、意見交換など自身の進歩にも役立てることができた。こどもの国動物園は、地域の動物を積極的に飼育展示している。動物にとっては同じ環境で育つことができるなど様々なメリットがあり、人々にとっても自分たちが住む地域の動物をより知ることができるというメリットがある。沖縄の人々に優しい動物園であると実感した。



沖縄の生物を分かりやすく展示

【琉球大学副学長の西田先生訪問】

今回のプログラムの関係者でもある、琉球大学副学長の西田睦先生を訪問した。西田先生から琉球大学の施設の説明並びにご自身の研究活動で経験されたリュウキュウアユの生態の激変についてのお話を聞くことができた。人間の開発と、それに伴う環境の変化が地域の生態を大きく変えてしまうことを改めて思い知らされた。同時に人にとっての自然に対する向き合い方を学ばせてくれるいいきっかけとなった。



参加者と琉球大の入り口にて

【琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設訪問】

沖縄北西部に浮かぶ瀬底島にある琉大の研究施設を訪問した。酒井一彦教授に施設の説明を受けた後、施設の中を案内してもらった。周囲の環境に合わせたサンゴの研究などは見応えがあり、貴重な体験だった。



研究用サンゴなどを観察

【やんばるの森散策】

国頭村比地大滝のトレッキングコースを散策した。一時間程度の散策だったが、優占種であるイタジイを始め、木生のシダであるヘゴなど、やんばるの植生を学ぶことができた。生態系が活発になる3月以降に是非訪れたい。